

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300183
法人名	株式会社華響
事業所名	グループホーム華蓮
所在地	鹿児島県鹿屋市野里町3456番地7 (電話) 0994-42-7223
自己評価作成日	平成30年10月 1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の方々との交流を積極的に行い楽しみをもって生活が出来るよう支援している。地区のゲートボール大会などは、隣接する広場で行われ、町内会の方々が声をかけてくださり交流の場となっている。紫陽花や秋桜・桜の名所も近く、ドライブに出かけられたり、季節を感じる事が出来る機会を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 自治会に加入し、有線放送や回覧版、総会などを通じて地域の情報を共有し、地域やホームの課題などをともに話し合い協力関係を築いている。利用者は、ゲートボール大会などの地域行事の見学や保育園、小学校の運動会に外出したり、中学生の職場体験やボランティアを受け入れて日常的に地域と交流している。また、災害や火災などの避難訓練の際は、利用者の暮らしぶりを見ていただき、居室や建物内を見学していただくなどして、協力関係を築いている。地域とは、日常的に交流があり、互いの素顔が伺える垣根のない関係性を感じるホームである。
- 避難訓練は、消防署立ち合いにて年2回昼夜想定で実施されている。スプリンクラーや消防設備、備蓄の賞味期限の点検、避難経路の把握などを定期的に行っている。また、子ども110番の家指定されており、日常から警察署や地域の防犯対策協力者などとの協力関係があり、不審者対策、防犯対策を検討しながら地域との連携体制を築いている。事業所は、自動通報装置や有線放送があり関係機関との連絡や協力関係があり、災害時は、地域住民の避難場所になっている。日常から、米は粳で保存し災害にも備えるとともに水や缶詰類などの備蓄もある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	生活の中で理念が生かされているか常に振り返りながら、利用者が地域の一員として生活が送れるよう支援している	理念は、玄関や事務所に掲示し、毎朝のミーティングや職員会議、また、職員研修の中で話し合い理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域行事への参加や近隣の小・中学校との交流も積極的に行っている子供110番避難場所の指定施設にもなっている	管理者は、自治会の役員会に参加したり、有線放送や回覧板などを通じて地域の情報を収集している。年2回、地域の方が消防点検に来られたり、地域の方とコスモス見学に一緒に行ったり、野菜や芋などの差し入れがあり、職員も地域の清掃活動などに参加し日常のお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	定期的に地域の独居生活をされている方々を訪問、民生委員や自治会の方々と意見交換をしながら見守り支援をおこなっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月毎に開催している。事業所の行事や利用者様の状況・事故やヒヤリハット等について報告、災害時の対応についても報告しサービスの向上に活かしている	年2回、併設の通所介護事業所と合同での会議を開催している。地域とは、消防訓練や不審者対策、防犯対策など連携して取り組むなど協力関係があり、定例化された運営推進会議の中でも、ホームの実情を知ってもらい地域の課題などが話し合われるなど相互の協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進会議を開催しホーム内の状況やサービスの取り組みなどを報告、メールや電話等でも密に連絡が取れる状況にある	市担当者や福祉事務所職員とは、直接面談したり、電話やメールなどで意見交換やアドバイスを貰うなどして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、拘束の具体例を示して研修会を行っている。外部研修にも積極的に参加している。指針・マニュアル等も整備されており、「身体拘束チェック事項」を活用し正しい理解と確認をおこなっている。	「身体拘束等適性化に係る指針」の整備やマニュアルなどもあり、「身体拘束チェック事項」を用いて、入職時や職員会議で周知し、身体拘束をすることについての弊害や正しい理解ができるよう職員教育を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事や研修等を通して正しく理解し、スタッフ間でも意見交換を行いながら日々の介護にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を通して、学ぶ機会があり個々の必要性に関しても関係者と意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に具体的な説明を行い納得していただいた上で文書の交付を行い入居して頂いている。又、入居後も定期的に利用者の状況を伝え不安や疑問点について尋ねやすい雰囲気作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や病院受診の際など折に触れ利用者の状況報告を行い、希望や要望の聞き取りを行っている。又、運営推進会議に参加して頂くことで、他の意見も聞いていただきそれらを運営に反映させている。	利用者や家族には、管理者や職員が面会時や家族会、行事などで面談し、意見、要望を聞き取るよう努めている。必要に応じて事業所が抱える課題や悩みなどを忌憚なく相談し、家族へ理解を求めサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時に意見や提案など聞く機会を作っている。	管理者自らシフトに入ることによって職員の意見をつぶさに聞き取り、課題も見えてくると考えている。定年制はなく、適材適所で働きやすい職場環境に配慮している。また、資格取得を勧めたり、職員旅行や食事会、忘年会などで職員間の親睦を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意分野を生かし、各業務の担当を決め、それぞれがやりがいをもって業務に取り組めるよう職場環境の整備に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得に向け各研修への参加や通信教育受講の支援を行っている。又、勤務してから数年が経過している職員に対しては、基礎研修の再受講など振り返りの機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各協会に加入、セミナー開催に向けて交流する機会があり定期的な情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で本人・家族・関係機関と面談し、本人の生活歴や現状をアセスメントしていき本人のペースで徐々に馴染んでいただけるように配慮しながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学して頂き、生活の流れ等について説明し得られた情報に基づいてサービス計画を作成、意見交換のできる機会を設けるなど、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、何に困っているのか、優先すべき支援を見極めスタッフ間で一貫性のある対応に努め、必要に応じて他のサービス利用を検討していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、お互い助け合い生活面でのアドバイスをもらいながら、支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況改善について家族の協力が重要であることを伝え協力を得ながら共に本人を支える関係を築いていけるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、馴染みの美容室を利用して頂いたり、自宅へ帰って近所の友達と交流をして頂く機会を設けるなど関係が途切れないよう支援に努めている。	家族と、墓参り、美容院、受診などで外出したり、宗教関係の方がミサに誘い出かける方がおられる。また、友人、知人、孫などの面会も多く職員は互いの関係性が大切にできるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛け合い支え合う環境づくりを大切にしながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話などで相談事に応じる体制を整えている。数年前に亡くなられた利用者の家族様も帰省時には、立ち寄ってくださり、思い出話をして帰られる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居義のアセスメント情報や日常会話・表情・しぐさなどから思いを汲み取るようにしており筆談などで個別に対応する利用者様もある。	日々の暮らしの中で言葉の端々やふとした表情やしぐさ、会話や行動などを通して、本人の思いに触れるようにしている。また、その思いを家族や職員全員で共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や面会者からの情報・本人との会話・本人を取り巻く関係機関から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、心身の状態を把握し、一日の過ごし方として、おおまかな日課はあるが、その日の体調に応じて個人のペースを大切に支持を心掛けている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の介護で得た情報を基に、個々の課題とケアの在り方を職員間で話し合い、本人・家族・主治医の意見を取り入れて介護計画に反映させている。	本人の役割や生きがいを見出し話し合い、本人らしい生活の実現に向けて計画するとともに、職員全員でアセスメントし、毎月モニタリングを実施している。また、居宅・施設合同のケアプラン勉強会に参加し自己研鑽し、事例検討会を通じてネットワーク作りをするなど情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の様子を支援日誌に記録し、更に介護経過としてまとめモニタリングに生かしている。毎日のミーティングでも情報交換を行い、細かい変化を見逃さない介護の実践につとめている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化が見られるニーズ等に対して、レクリエーション内容や日課等も日々変化させ柔軟な支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小中学校との交流、職場体験の受け入れなどを通し、その後も地域の子供たちや昔馴染みの方々が自由に訪れやすい環境作りに努め、お互い支え合う生活を楽しんでおられる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を中心に受診をすすめる事として、変化の見られない状況に対しては訪問診療による経過観察を支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医であり、外来受診は少なく、ほとんどが訪問診療である。毎年、歯科医が健康診断を実施、口腔衛生に努めている。主治医によっては、メールでの連絡や相談をおこなったり他科受診の支援、薬剤師との連携にて適切な医療が受けられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に7人の看護師が勤務しており、情報交換を行いながら支援している。又、気になる点については訪問医に相談し利用者が適切な受診・看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーにより施設内での生活状況など情報提供を行い、又、退院後早期に通常の生活に戻れるよう病院関係者と情報交換を行いながら関係づくりをおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化や終末期における指針・マニュアルを説明している。重度化して状況が変化した時は、家族と主治医が話し合い、看取りも視野に入れて事業所で出来る最大限の事を話し合い、職員も共有して支援している。	法改正により、指針やマニュアルの整備を実施、重度化や看取りの意志確認書は、早い段階から必要に応じて取り直しをしている。また、本人、家族の意志を把握し、看護体制も取れておりチームケアにて看取りを実施し、経験豊富である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応がスムーズにできるようマニュアルや緊急ファイル等を準備している。救命講習などを受講しており、実践力を身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	不審者対策や地震時の対応、火災時の避難訓練を年に2回行っている。消防団や地域の協力をもらいながら利用者が安全に避難できるよう協力体制を築いている。	ホームは、子ども110番の家に指定されており、警察や地域の方が防犯や不審者対策ため委嘱されるなど協力関係を築いている。また、管理者などは、災害時地域の一人暮らしの方の安否確認などの支援をしている。避難訓練は、地域の協力をいただきながら実施、備蓄もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活環境を知り、その人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけが出来るよう心掛けている。	職員は、接遇やマナー、尊厳を意識した教育プログラムなどの研修を積み重ね、日々のケアでは言葉の使い方や声かけの仕方など自尊心や人格を否めることがないよう自己研鑽している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	部屋の片付けや掃除など、一緒に行いながら必要な物を選んだり、買い物等の計画を立てたりと、自己決定できる機会を持つよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や希望に合わせた暮らしを支援している。起床時間・食事等も個々に合わせた時間で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴の準備など好みの洋服を自分で選んでいただくよう選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査やアセスメント情報から食事形態や代替食など工夫している。利用者の力量に応じて職員と一緒に食材購入や下ごしらえなど手伝って頂いている	地域や家族との関係性も良好で差し入れなども多く、料理に取り入れている。能力に応じて食事の準備や片付けなどをお手伝いいただくなどしている。たこ焼きやケーキなどの手作りのおやつ作りも職員と一緒に実施、外食も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量については個々に記録し、職員全員が把握出来るようにしており、利用者の状況や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行い、ポリデントによる義歯消毒も定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンの把握を行い、時間を見てトイレ誘導を行っている。個々に応じて自立に向けた支援を行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄のリズムを把握し、昼間はなるべくトイレで排泄、夜間は睡眠を重視したり、病態を考慮して本人本位に、また、必要性を検討しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、水分の補給や食材選びなど個々に応じた支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	介助を必要とする人、そうでない人など個々に合った入浴スタイルを取っている。季節に応じてゆず湯を楽しんでいただくなど楽しんでいただく工夫をしている。	利用者の希望や必要時に応じて入浴支援をしており、外出希望がある時は、入浴を控え外出を優先するなど臨機応変に対応している。職員は、利用者の希望を聞き取り、入浴方法を検討しながら個々の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自室で過ごされる時間・レクリエーションなどへの参加の時間など自由である		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬手帳に記録されたものがあり、薬の説明についてもカルテにファイルされている。定期的に薬剤師の訪問があり、服薬時も2人以上で確認するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で食事の片付けや洗濯物の片付けなど、それぞれの役割をもって生活されている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と衣替えの為に自宅に帰られたり、美容室や買い物・墓参りなどに出かけられる利用者もある。年間計画で、花見や外食・初詣に出かけるなど日常的に外出支援を行っている。	天候や体調を見ながら、なるべく戸外に出て散歩を勧めているが、本人の意向を踏まえ無理のない外出を検討している。花見の時期には桜や紫陽花、チューリップやコスモス見物に出かけたり、みかん狩りに少人数で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などは、家族と一緒に出掛けられる。ほとんどがホーム側で預かっている方が多く、生活に必要なものなど新聞の公告を見ながら買い物リストを作り病院受診などのついでに買ってこられる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	定期的に家族の面会があり、電話等で会話される利用者はほとんどない。家族が遠方の方については、写真や状況を伝える手紙をホーム側から送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、採光が柔らかい。加湿器や空気清浄機が置かれており、湿度調整がされている。リビングは対面式で利用者の動きがよく見え、壁には各行事の写真や作品が飾られている。	共有スペースをぐるりと取り囲むよう居室が配置され、対面キッチンからは、職員との話し声や料理の匂いなどが聞こえるなど家庭的な雰囲気のある共用空間である。また、アイドル犬が愛嬌を振りまき利用者の癒しになっている。対面で腰掛けるようソファが設置してあり、談笑したりテレビ鑑賞している。壁には、季節を感じさせるレイアウトがされ外出時や行事の時の写真や利用者の作品などが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、音楽を聴きながら数独や絵を描かれたりされ思い思いのスタイルで過ごされる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込み、身体状況や認知症の周辺症状に合わせて配慮した家具・手すりの設置など、利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。	備え付けのクローゼットは大容量の収納が可能で、馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごしている。身体機能の低下があり、木製のベッドから電動ベッドへと変更された方があったが、職員は、必要に応じて住環境を整備するなどして生活しやすいよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子などはキャスターの着いたもの、そうでないものなど利用者のADLに応じて使い分けている。部屋の入り口には花やネームプレートなどを貼り、安心して移動ができるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない